

いつの日か、自身の生まれ育った国に最大の利益をもたらし、人類全体に貢献した偉大な女性を選ぶ時が来たら、鈴木よねの名はそのリストの上位に挙げられるだろう。彼女こそ、キップリングの詩の一節「東は東、西は西、両者が交わることはない」を覆した人物として最も称えられることになるに違いない。

1852 年は、日本の歴史において記憶すべき年である。この年は、日本が世界の列強として台頭する端緒を開いた年であった。アメリカ合衆国がマシュー・カルブレイス・ペリー司令官を派遣し、艦隊を率いて日本に赴き、「桜の国」の扉を世界貿易に向けて開かせた年である。そして同じ 1852 年に、のちに日本を世界の市場へ導き、国際貿易を通じた発展の手段を指し示した「日本のジャンヌ・ダルク」、鈴木よねが生まれた。

今日の私たちの国では、女性がビジネスの世界で活躍する姿は日常的である。それどころか、私たちはさらに一歩進み、女性が政治の場にも進出している。しかし、50 年前の日本では、そのような光景は見られなかった。何世紀にもわたる伝統により、女性は家庭にとどまることを求められていた。東洋的な慣習が帝国の隅々に浸透し、女性たちはビジネスや政府など家庭以外の活動に参加することなど夢にも思わなかった。そして、鈴木よねが登場した。

彼女の物語は、日本の古き伝統に根ざし、海外貿易や商業開発の面で数世代も遅れを取っていた国で、しかも経済的に恵まれていない家庭に生まれたといった困難（それが困難と呼べるならば）に立ち向かった日本女性の姿である。現在、彼女は自身が築き上げた 2 つの会社、株式会社鈴木商店と鈴木合名会社の現役社長を務めている。これら 2 つの会社の資本金総額は 6,500 万ドルを超える。

世界中を見渡しても、鈴木よねと似た地位を占める女性はいない。彼女が支配権を持つ産業の一覧は、まるでアメリカ合衆国商工会議所の名鑑のようである。鈴木商店の 1 つは主に砂糖を扱い、もう 1 つは持株会社であり、多くの業界にわたる企業を統括している。その業種は、製鉄、金属加工、蒸気船運航、人造絹製造、樟脳精製、タバコ製造、植物油精製、製紙工場、ソーダ生産、炭鉱業、銅鉱業、生命保険、海上・火災保険、人造革製造、塩精製、ボルネオのゴム農園、倉庫業、紡績業、小麦粉製粉、ラジオ会社、セルロイド製造、メンソール精製、電気機器製造、水力発電所、朝鮮の鉄道、ビール醸造、映画産業などに及ぶ。

彼女の支店は地球上に点在し、ロンドン、リヨン、ポートウエルド、シドニー、ボンベイ、スラバヤ、香港、天津、大連、京城、東京、大阪、マルセイユ、ハンブルク、ブエノスアイレス、メルボルン、カルカッタ、シンガポール、上海、青島、ウラジオストク、台北、横浜、バタビア、さらにはポートランド、サンフランシスコ、シアトル、フォートワース、ニューヨークに代表者がいる。

50 年前、鈴木岩治郎は東京で菓子製造業者の見習いとしてキャリアをスタートした。その後、彼は西日本の商業の中心地である大阪に移り、小規模な砂糖商人の下で働くようになった。しばらくして神戸にある支店の管理を任されるようになり、この時期に鈴木よねと結婚している。事業は鈴木の名の下に独自に行われており、岩治郎はわずかばかりの資金を貯めることができた。貿易品目は砂糖のみで、小規模な砂糖商人から仕入れ、小売業者に販売していた。

1893 年に岩治郎が亡くなると、約 15 万ドルがよねに遺された。仏教の慣習に従い、家族会議が亡夫の霊前で行われ、その資金は 2 人の息子の教育に使うべきだと決定された。しかし、その時よねは、後に日本の歴史と鈴木家の運命に大きな影響を与えることになる決断を下した。夫の岩治郎は他の日本人よりも広い視野を持っていたようで、いつの日か日本が世界有数の商業国になるという夢を抱いていた。彼は生前、砂糖の取引に限定されてはいたが、国際貿易に少しずつ事業を拡大していた。よねは彼の夢を知り、それを信じていた。そして、その夢は彼女に引き継がれることになった。そのため、親族や友人たちが、息子たちの教育に資金を充て、残りの人生を悠々自適に過ごすよう勧めたにもかかわらず、鈴木よねは遺産を事業と国際貿易の発展に活用することを決意した。

彼女は古くから信頼の厚い 2 人の社員、金子直吉氏と柳田富士松氏に資金と事業の管理を委ねた。しかし、価格の下落と景気の不況により、わずかに残された財産は完全に失われた。金子は失意のあまり自殺を試みた

ほどだった。だが、鈴木よねの不屈の精神が状況を救った。彼女は金子と柳田を励まし、自ら事業の指揮を執ることを決めた。それ以来、すべての意思決定が彼女の元に持ち込まれ、彼女の迅速な判断力、先見性、そして鋭い分析力が、会社を財政破綻の危機から救い、現在の地位に導いたのである。

25年前まで、鈴木商店は砂糖の取引に専念していました。しかし、鈴木よねの指導の下、事業は樟脳や米、その他いくつかの製品にまで拡大されました。その後、徐々に取り扱い品目が増え、現在では鈴木商店は世界のほぼすべての基幹産業に直接関わる企業となっています。

この「産業の女王」と呼ばれる女性は、ビジネス界で他の女性を圧倒的に凌駕する存在ですが、どのような人物なのでしょう？彼女の商業的な業績を考えると、私たちは彼女を抜け目なく、先見性があり、断固としてエネルギーで、時には厳しく、ブルドッグのような決断力と鉄の意志を持つ――要するに、男性的なタイプとして想像するかもしれません。しかし、そのイメージは完全に間違っています。それは彼女には全く当てはまりません。確かに、先見性がありエネルギーではありますが、それ以上に鈴木よねは「母」であるのです――彼女の二人の息子たちにとって、そして彼女と共に働く組織全体の人々にとっての母親です。このような鈴木よねのリーダーシップの精神こそが、労働問題を解決し、現代の商業世界に蔓延する困難を取り除く鍵となるでしょう。彼女は、商業的なアイデアにおいて自国の何世代も先を行っていましたが、それを日本全体の考え方に引き上げました。そして、彼女のリーダーシップの精神においては、アメリカの商業的な考え方を遙かに先んじています。

最近、ニューヨークで彼女の代表者たちと話す機会がありましたが、彼女が従業員たちから受けている尊敬、崇敬、敬愛、そして愛情に驚嘆せざるを得ませんでした。

「ご覧の通り、私たちは鈴木家の一員です。私たちは無機質な会社のために働いているとは思っていません。それは世界中どこでも同じです。私たちは皆、『鈴木之母さん』の大きな家族の一部です。私たちの誰かが日本を離れ外国の支店に赴く際には、鈴木夫人が必ず呼び寄せて、別れの挨拶と饞別を渡してくれます。そしていつも『自分の体を大事にしてください』と声をかけてくれるのです」と一人の代表者が話してくれました。

つい最近まで、鈴木夫人は毎日午後、自分で焼いたケーキを持って会社の本社を訪れ、事務員全員に振る舞っていました。それは、組織に彼女の人格を注ぎ込み、彼女の「家族」に対して思いやりを示す方法の一つでした。もちろん、彼女は上等なケーキを購入することもできたでしょう。しかし、それでは意味がないのです。彼女は、自分の手で作ったケーキに込められた個人的なぬくもりを届けたかったのです。しかし戦争以降、会社の組織が非常に大規模になったため、この慣習を続けることは不可能になりました。

これほど巨大な商業チェーンのトップとして活躍するビジネスウーマンが、どうして従業員のためにケーキを持参する時間を見つけれられたのだろうか、と疑問に思うかもしれません。その答えは、現在も日本のビジネス界に残る習慣にあります。それは、新しい時代と古い時代を結ぶ最後の絆であり、鈴木夫人が保つべきだと考えたものでした。彼女はオフィスで仕事をしていません。信頼できる古参の従業員たちが詳細な業務を処理し、経営方針や事業の問題については彼女の決断を仰ぐ形をとっています。彼女の広い視野と確かな判断力は、彼女の事業の成功によって最もよく示されています。

しかし、鈴木夫人の活動はビジネスだけにとどまりませんでした。彼女は日本の対外貿易の先駆者の一人でしたが、それは彼女の業績の一つに過ぎません。日本がビジネスの発展だけでなく、その他の分野でも時代遅れであることを痛感し、彼女はその状況を改善するために取り組み始めました。一例として、当時の日本のビジネスは完全に男性の手に委ねられており、ビジネスの世界で女性は全く存在していませんでした。何世紀にもわたる慣習や伝統を覆そうとする試みには、際限の無い勇氣と胆力が必要でした。それでも、彼女自身が慣例の枠を越えた以上、他の日本女性たちが彼女らを縛り付けている鎖から解放される手助けをしようと決意したのです。彼女は女性のための学校を設立し、そこでタイプライティング、簿記、速記が教えられました。今

日では、日本のオフィスで女性が男性に取って代わる動きが急速に進んでいます。

国際貿易と教育の発展における彼女の日本への貢献が認められ、1914年、鈴木夫人は天皇より勲章を授与されました。日本が国際的な商業国家として成長してきた歴史は、鈴木よねの指導の下で鈴木商店が成長してきた歴史と並行しています。

現在71歳になった鈴木夫人ですが、彼女は依然として自身の2つの会社の社長を務めています。そして彼女は単なる名誉職の社長ではなく、方針や経営に関する問題を今でも決定しています。それに加えて、彼女は古典劇の振興や絵画や日本の骨董品の収集にも積極的に取り組んでいます。鈴木夫人の提案によって、日本の陽だまりの丘には美しい花々や見事な果実が広がる広大な土地が作られています。彼女は花や果物、美しいものを愛し、日本においてビジネス以上の美的な発展を促進したいと考えているからです。

鈴木よねの2人の息子は今や成長し、立派な大人となっています。父親の名を受け継いだ長男・岩治郎は40歳、次男・岩蔵は28歳です。二人とも鈴木商店の巨大な事業の運営に積極的に参加しており、両者とも会社の取締役を務めています。彼らの教育はスパルタ式であり、鈴木夫人は過剰な財産が彼らの勤勉さや儉約精神を損なわないよう配慮しました。岩治郎は東京の大学に入学しましたが、事業の拡大が著しく、古参の信頼できる従業員だけでは監督しきれなくなったため、彼は大学教育を諦め、ビジネスの厳しい現実の中に飛び込みました。15年前、会社のイギリス支店が開設された際には、英国商人との取引を確立するために渡英しました。現在、彼は神戸の本社に勤務しています。

一方、岩蔵は日本の高校を卒業した後、ボストン工科大学（MIT：マサチューセッツ工科大学）に進学し、化学を専攻して1912年に卒業しました。現在、彼は鈴木商店の化学産業全体を監督する役割を担っています。

この力強い産業を愛と信頼によって治める慈悲深く敬愛される支配者は、既に70歳を越えました。彼女に残された時間は比較的短いものですが、過去の功績や正当に得た栄光に浸るのではなく、長年続けてきた経営者としての役割を続けることを選んでいます。彼女の背後には、国のため、人々のため、歴史上のごく少数の女性しか成し得なかった功績があります。彼女は日本人に、世界の交易市場を通じて力を得る道を示しました。そして、女性もまた真に人間であり、家庭の仕事に限らない思考を持つ脳を与えられていることを証明しました。さらに彼女は、広大な商業および産業組織であっても、労働者や従業員に対する共感、理解、感謝を基盤とする政策のもとで機能し、成功することが可能であることを世界に示しました。また、長い間日本を縛り付けてきた迷信や狭量な考えの鎖から、国を解放する道を切り開きました。彼女の人生は、世界の歴史においてごく少数の女性しか匹敵し得ないものです。そして、この何万人もの従業員たちの心に深く刻まれ、「鈴木之母さん」として敬愛される彼女の驚異的な人物像は、まだ終わりを迎えていません。残された短い人生の中で、彼女がさらに何を貢献するのか、誰にも分かりません。